

2018年度 関西学院中学部 学校評価を終えて

幼稚園から大学院まで連なる総合学園としての関西学院は、その良さを生かし、お互いに連携をとりながら整合性のとれた学校評価を実施するため、接続する学校の教職員の先生方に専門的な視点からのご意見をうかがうことで、第三者評価と学校関係者評価の両方の性格を併せ持つ「第三者評価／学校関係者評価」を導入しています。この度、中学部の学校評価が関西学院評価推進委員会において承認されましたので、ホームページ上で公表させていただきます。

2018年度は、連続性を見るために引き続き「教育課程・学習指導」「生徒指導」「保健管理」「保護者との連携」「キリスト教主義教育の実践」「特色ある教育の実践」を評価項目に設定し、評価の実施にあたっては、各項目について生徒・保護者・教員にアンケート調査を行い、それぞれの立場からのご意見を聞くことによって客観性を確保しました。アンケートの回収率は、生徒 97.6 %、保護者 74.7%、教員 100 %となっております。

今年度も各項目について、まず現状を説明し、アンケートの集計結果も参考にしながら評価・分析を加え、今後の改善に向けた方策を示し、自己点検・評価としました。また、評価者の先生方に、ありのままの姿の中学部の教育を知っていただき、いただいたご意見も合わせて中学部の学校評価としてまとめています。

関西学院中学部は、学校評価を通じて自らその課題を探り、それに向き合っ
て改善することによって、より充実した教育活動等を生徒に提供し、また、その結果を社会に公表することによって信頼を高め、課題意識を共有していく所存であります。

2018年度中学部の学校評価を項目別にまとめたものを、以下に掲載いたします。

今後とも、各部門において改善に努めていく所存ですので、どうぞよろしく
お願いいたします。

2019年3月15日
関西学院中学部
部長 安田栄三

学校評価

教育理念・使命・目標

中学部がめざす教育の目標

1. キリスト教に基づいた伝統ある人間教育を根本に置いて、「感謝・祈り・練達」の教育理念を大切にし、人の痛みをわかろうとする人間、他者を尊重し将来に夢を持って社会に貢献できる人間を育てる。
2. 建学の精神を体得した生徒を育てることにより、将来高等部、大学、さらに社会人として、リーダー的役割を果たせる人間を育てる。

2018年度の評価項目

- ①教育課程・学習指導：全生徒に対して中学部がめざす水準の基礎学力を定着させるとともに、学力上位生徒に対して、興味関心に応じた発展的学習を行うため、学習課程の精査や教授力の向上をめざして設定している。
 - ②生徒指導：生徒の社会的資質や行動力を高め、学校が生徒にとって有意義で興味深く充実したものになることをめざして設定している。
 - ③保健管理：生徒の身体面、精神面にかかわる項目として設定している。
 - ④保護者との連携：生徒を育てるには学校教育と家庭教育に一貫性が求められる。そのため保護者と教職員の連携が密になるように設定している。
 - ⑤キリスト教主義教育の実践：建学の精神としてのキリスト教主義教育の充実をめざし設定している。
 - ⑥特色ある教育の実践：中学部の特色として重点的に展開している授業や行事等の充実をめざし設定している。
- 以上の6項目。

2018年度の評価項目とテーマ、自己評価、目標、具体的な取組の状況とその効果に対する評価、今後の方策

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【教育課程についての教員間の共通理解と連携】	自己評価	B
目標	教員による教育課程の全体像の理解		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●毎年、新入生に対し「学習ガイドブック」を配付し、それぞれの教科目標、内容、学習法などへのガイダンスを行っているが、同時に教員間の共通理解も得られることを企図している。 ●定期試験、学力推移調査、GTECの結果と分析を全教員に周知し、他教科の達成度、それに基づく指導法についての共通理解が得られるようにしている。 ●各学年、授業担当者の情報交換会を行い、生徒個別の情報と共に、学習活動についても情報を共有するようにしている。 ●本年度は、学習指導要領改訂に伴い、各教科で教育目標、達成目標、学習活動の方法等を作成し、全教員でそれを共有できるようにした。 ●教員アンケート質問1「教員は、教育課程の全体を理解している」の項目について、昨年度は肯定的評価が70%を切っていたが、今年度はやや回復している(75.8%)。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●教員間の共通理解を深めていくため、従来の取り組みを継続的に行う。 ●学習指導要領改訂、大学入試改革に伴う諸変化を、各教科の枠を超えた場で研究し、本校教育のあり方を模索していく。また、その結果を全教員に周知する。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【生徒の学力・体力の的確な把握】	自己評価	A
目標	外部テスト導入などを通じた学力のより客観的な把握／教員による学力や体力評価についての理解向上		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期試験、各教科の小試験、口頭試問、課題提出等、種々の方法で、細やかに生徒の学力状況を把握するようにしている。 ● 内部試験だけでなく、学力推移調査、GTEC等の外部試験を導入し、客観的な学力やその推移の把握を行っている。 ● 漢字能力検定、英語検定等の受験を奨励し、生徒が明確な形で自分の達成度を確認できるようにしている。 ● 教員アンケート質問2「教員は、外部テスト導入などにより、客観的な学力把握に努めている」の項目では、昨年度より若干上昇し、81.8%の教員が肯定的評価を行っている。ただし、2016年度に比べると、まだ4.7%低い。 ● 生徒アンケート質問3の82.3%、保護者アンケート質問4の91.0%が、学力・体力を適切に評価されていると感じている状況は、ここ数年来変わっていない。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来通り、種々の方法で学力把握・評価を行うとともに、生徒、保護者に対して通知表だけでなく、適宜、効果的に伝達し、自分の達成状況を認識させ、学習目標とできるようにしていく。 ● 生徒、保護者に対して、種々の結果を伝える際、その試験などの結果が持つ意味などを積極的に解説、説明する。 ● 教員に対しても、外部試験などでは、そのデータ活用の方法をガイダンスしていく。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【各教科の特性に応じた授業の工夫】	自己評価	A
目標	教員自身による担当教科の特性の理解／より質の高い授業をめざしての教員による不断の研究／授業研究の成果を活かしての授業への不断の創意工夫		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ● 全教員に対して、研修日や研究費などの自己研修の時間や費用を確保し、教員の資質向上を図っている。 ● 各教科とも、独自の教材を作成し、基礎学力の定着だけでなく、応用・発展的な内容の授業を行っている。 ● 生徒アンケート質問5「授業はさまざまな工夫が加えられていて分かりやすい」について、78.3%が肯定的評価を行っているのは、ここ数年来変わっていない。 ● 教員アンケート質問3「自らが担当する教科の特性を理解している」で肯定的評価が97.0%であるのは昨年度同様であり、その傾向も数年来同じである。また、教員アンケート質問4「質の高い授業を目指して、授業研究を不断に行っている」、教員アンケート質問5「授業研究の成果を活かし、授業の創意工夫を行っている」では共に90.9%が肯定的評価を行っており、これは昨年度より10%程度上昇している。しかし、教員アンケート質問6「知的好奇心の喚起に留意した授業を行っている」では肯定的評価が78.8%と昨年度同様にやや低い。これは、対象生徒の学力差が大きく、それに伴って興味・関心の程度の差が大きいため、どの層に焦点を当て授業を行えばよいのか解りにくくなっているのが原因と考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ● 従来通り、教員の資質向上のため、自己研鑽の機会を確保する。 ● 教員間で授業構築に関する情報や意見を交換していく。 ● 経験豊富な教員が、新任や経験の浅い教員に積極的な指導・助言を行っていく。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【個々のニーズや興味関心に応じた授業展開】	自己評価	B
目標	知的好奇心の喚起に留意した授業の展開／補習など特別な学習機会の提供／中学部と高等部との連携		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●各教科で発展的・応用的学習内容にも触れ、興味関心のある生徒の要求にも応えられるようにしている。また、関心度の高い生徒には、個別に助言、指導も行っている。 ●英語で分割授業を行い、学力状況に応じて細やかな対応ができるようにしている。 ●国語・数学に遅れがあることが多い海外帰国入学生に対しては、それを取り戻すよう、1年生の時に週2時間の特設授業を行っている。 ●基礎学力確保のため、英語・数学では達成度が低い生徒に対し特別授業を行っている。ただし、数年前に比べ、学力差の幅が拡大しており、特別授業も達成度別にせねばならないような状況も生じている。 ●生徒アンケート質問6、保護者アンケート質問5の「補習等の機会が確保されているか」の質問に対し、生徒は87.1%が肯定的評価をしているのに対し、保護者は70.8%と低い。生徒に対し、保護者の満足度が低い傾向は数年来同じではあるが、昨年度の73.0%と比べても微減である。これは到達度の低い生徒が増加傾向にあることが要因の一つと考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●学習意欲が高く、学力の高い生徒の期待に応えることと、到達度の低い生徒に対応するという相反する要求に対応するのは極めて困難である。また、一般的傾向として到達度の低い生徒への対応に力が振り当てられがちなのも事実であるが、上位層への配慮も重要である。そのため、英語に加え、国語・数学・社会・理科でも分割授業、習熟度別授業の導入を検討せねばならない。ただ、実現を担保するための諸条件の整備が必須である。 		

評価項目 【テーマ】	教育課程・学習指導 【課外活動の充実】	自己評価	A
目標	生徒会など自治活動の充実／クラブ活動など課外活動の充実／課外活動が正課（学習）を妨げていないことの徹底		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒アンケート質問1「学校に行くのが楽しい」と質問2「中学部の教育に満足している」、保護者アンケート質問1「生徒は楽しんで学校に通っている」と質問2「中学部の教育に満足している」に関して、数年来、生徒・保護者ともに高い。これは教科活動以外の、活動の充実もその要因であると思われる。 ●文化祭・体育大会その他学校行事において、生徒会が中心となって実行委員会を組織し、行事運営の重要部分を担っている。それが自治意識の涵養に資している。 ●クラブ入部率は各学年95%を超えているのも従来通りである。 ●定期試験中、試験前1週間はクラブ活動を停止し、学習時間を確保している。 ●学習時間を確保し、家庭・地域での種々の体験ができるようにするため、休暇中のクラブ活動は、夏期は18日に制限し、冬期は原則的に停止している。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●充実した自治活動、クラブ活動への取組は従来通り行っていく。 ●特に成績不振者に対し、学習時間、その他の条件が確保できるよう、クラブ活動のあり方を検討していく。 		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【基本的生活習慣の確立】	自己評価	A
目標	挨拶や時間厳守などの基本的社会マナーの指導／整理整頓や環境美化の指導		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●挨拶・時間厳守・身だしなみ等の基本的社会マナーについては、生徒指導部を中心に全教員で重点的に指導している。 ●基本的社会マナーについて、生徒・保護者ともに肯定的評価の割合が非常に高くなっている。それに対し教員の肯定的評価が 69.7%と昨年に引き続き少し低くなっている。原因の一つに、登下校時などに教員が生徒に注意を与える指導が多かったことが挙げられる。 ●肯定的評価が低く課題となっている教員アンケート質問 13「整理整頓や環境美化に努めさせている」の項目は、今年度も昨年度同様に低い評価にとどまっている。「ポスター委員会」を組織し、生徒の作成したポスターを掲示することで美化意識の啓発活動を行っているが、多くの場所を管理人の方々に掃除してもらっているなかで、生徒に美化意識を持たせるのは難しく課題が残っている。特に掃除への積極的な態度を育む必要がある。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●基本的社会マナーについては今後も全教員で重点的に指導していく。 ●整理整頓や環境美化の指導については、風紀美化委員会を中心に生徒会と教員が連携して、掃除当番の意識向上などを粘り強く指導していくこととする。 		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【自主自律の精神の育成】	自己評価	B
目標	HR（学級活動）における自主自律の精神の育成／学校行事における班活動などを通じた自主自律の精神の育成		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織してその企画・運営を自主的に行っている。各行事の実行委員会は募集人数を超えて委員の応募があり、積極的に取組む生徒が増えている。 ●代議員会及び各委員会活動の活性化に重点を置き、生徒会活動およびホームルーム活動を中心に自主自律の精神を育てている。 ●保護者アンケート質問 11「生徒の自主自律の精神を育成している」では肯定的評価が 90.2%と非常に高くなっている。今年度は全生徒に「生徒会活動に関する意識調査」を行い、生徒たちの意見に対して生徒会役員会が丁寧に答えて意識の向上を図った。しかし、生徒アンケート質問 7「自分たちの手でホームルームや生徒会などの自治活動を行っている」は肯定的評価が 76.1%とやや低めに、教員アンケート質問 14「クラス担任は、学級活動において生徒の自主自律の精神の育成に努めている」は肯定的評価が 63.6%と低くなっている。これは活発に自治活動を行っているのが、中心となる一部の生徒に限られていることが原因と考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も各行事において、生徒会役員がリーダーとなり委員会を組織して、その企画・運営を自主的に行わせ自主自律の精神を育成していく。また、全生徒がその活動に積極的に関われる仕組みづくりをさらに検討する。 ●生徒会・委員会活動をさらに活性化し、生徒に自ら判断し行動できる力を身につけさせる。 ●昨年度より置いている複数年生徒会を担当する教員の権限を拡げ、活動の継続性を高め活性化していく。 		

評価項目 【テーマ】	生徒指導 【問題行動への対応】	自己評価	A
目標	生徒の問題への対応についての教員間での共通理解／生徒の問題行動の早期発見／問題行動に対しての適切な指導・訓戒		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の問題行動に対しては、「迅速・適切・誠実」を念頭におき、当該学年団と生徒指導部が密に連携しながら対応している。 ●教員アンケート質問 15「生徒の問題への対応について教員間で共通理解がある」の項目で肯定的回答が毎年低下していたが、教員数が増えたことで教員間のコミュニケーションが難しくなったことが背景となっているため、昨年度より情報共有フォルダーを作成し指導案件の報告をきめ細かに行ってきた。さらに今年度は基本的共通理解のための教員用マニュアルを完成させ共通理解と意思統一を進めることとした。このため教員の肯定的評価が一昨年度の 51.4%、昨年度の 66.6%から今年度は 72.7%まで上がった。 ●生徒アンケート質問 11、保護者アンケート質問 12、教員アンケート質問 16 の「問題行動などについて適切に対応している」の項目では、生徒・保護者・教員ともに肯定的評価の割合が高く、生徒指導に関する情報共有と意思統一に取り組んだ成果が表れたものと思われる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●教員間での「情報共有方法の構築」「生徒指導についての意思統一」について指導部内に検討会議を設けて対応策を策定し、現在試行を始め少しずつ効果を上げている。来年度は作成した基本的共通理解のための教員用マニュアルを改善していき共通理解と意思統一をさらに進めることとする。 		

評価項目 【テーマ】	保健管理 【心身の健康管理】	自己評価	B
目標	健康診断の定期的な実施と事後措置／健康状態の把握／健康相談／感染症の予防		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒たちが健康で安全な生活ができるよう、健康診断を実施し、事後措置・管理を行っている。また、定期的に学校医とのミーティングの場を設け、健康診断の事後措置をはじめ健康面で配慮を要する生徒についての指導、助言を受けており、健康上の支援に生かしている。 ●中学生であるこの時期は体の変化とともに心の変化、葛藤が大きく、心身の不調をきたしやすい。生徒一人ひとりを理解し、支援していくことは簡単にできることではないが、カウンセリング委員会で情報を共有し、生徒のサポートに努めている。 ●生徒アンケート質問 12「中学部は、自分の健康に関する情報を適切につかんでくれている」で肯定的評価が 81.2%、保護者アンケート質問 13「中学部は、生徒の健康に関する情報を把握し適切に対応している」という項目で 89.5%の肯定的評価があった。 ●教員アンケート質問 18「中学部は養護教諭、カウンセラー、教員間で情報交換や連携を適切に図り、生徒の健康状態の把握に努めている」において 87.9%の肯定的評価があった。 ●一方で生徒の心身の健康相談の場について、生徒アンケート質問 13「中学部には心や体の健康について相談する場所がある」で肯定的評価は 64.3%にとどまっている。大人に相談しにくい年代ではあるが、生徒たちにとって気軽に相談できる環境を整えることが課題である。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒の支援については引き続き、カウンセリング委員会で情報共有しながら、サポートしていけるように努力する。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ●『保健だより』を通じて、心と体の健康について発信していく。 ●今後も開かれた保健室を目指して、生徒たちが相談しやすい場所となるよう雰囲気作りに努めていく。
--	---

評価項目 【テーマ】	保健管理 【怪我・急病発生時の対応】	自己評価	A
目標	怪我・急病発生時の迅速で適切な対応		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●怪我・急病の発生時には迅速に、適切に処置が行えるよう努めている。また、病状の報告やその対応については保護者と連絡、相談しながら行うように心がけている。 ●生徒アンケート質問 14「中学部は、怪我や体調不良の時に素早く適切な対応をしてくれる」で 86.9%、保護者アンケート質問 15「中学部は、生徒の怪我及び急病発生時には迅速で適切な対応をしている」で 93.2%との肯定的評価を得ている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●今後も怪我・急病発生時には適切な処置が行えるように努め、病状の報告や対応について保護者と連絡、相談しながら行っていく。 ●怪我をした際にはその要因を生徒と共に振り返り、怪我の予防について考えて生徒の意識を高めていく。 		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【学校運営についての保護者との協力状況】	自己評価	A
目標	P T A と協力した学校行事の運営／教育内容に関する保護者との意見交換		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●全校行事のサポートとして、文化祭で地区ごとに分かれて中学部グッズ、飲食物等の販売、中庭喫茶、マラソン大会でスポーツドリンクの差し入れ、合格生徒と保護者の会での中学部グッズ販売がある。その他にも、P T A 聖書を学ぶ会、P T A だよりの活動を展開している。 ●保護者へのアンケート質問 16「中学部は、行事などの際に、適宜P T A と協力してこれを実施している」に対して、肯定的評価が 95.7%と高い数値を示していることから、昨今、保護者のP T A への参加率の低迷が社会問題になっているにも関わらず、取組みが評価されていると考えられる。 		
今後の方策	●保護者との意見交換ができる時間を、今まで以上に設けるようにする。		

評価項目 【テーマ】	保護者との連携 【保護者との懇談の実施やP T A との協議会の運営状況】	自己評価	A
目標	P T A 幹事会等の適切な開催／クラス担任と保護者との面談の実施／クラス・クラブ・委員会等の保護者との懇談の実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●P T A 幹事会を年5回（1学期2回、2学期2回、3学期1回）行っている。ここでは、学校行事での活動方針を話し合い、実行した後は反省点を挙げて次年度の活動につなげている。P T A 幹事会では毎回、活発な意見交換ができています。クラス担任と保護者の会、クラブの保護者会（ほとんどが新入生保護者歓迎会と卒業生送別会を行っている）も盛んである。クラス担任と保護者の二者面談や、三者面談もすべてのクラスで行っている。結果、保護者アンケート質問 17「中学部は、P T A 幹事会等、P T A との協議会を適切に開催している」に対して肯定的評価が 96.0%、保護者アンケート質問 18「中学部は、クラス担任と保護者 		

	との面談を必要に応じて適切に行っている」に対して肯定的評価が 86.5%と高い評価となっている。
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●PTA幹事の仕事は簡略化の余地があるので、それを見つけて、PTAの負担をできるだけ軽くしていく。 ●クラス担任との面談については、その内容・時間・時期について保護者の満足度を上げるように考えていく。

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の理念の共有】	自己評価	A
目標	教員間でのキリスト教主義教育の理念の共有／キリスト教主義的人間理解を基にした日々の教育活動		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●キリスト教主義教育は毎日の礼拝や聖書科授業を中心に全学的な教育プログラムとして展開している。また、クリスマスや花の日等の行事等を通してその理念を生徒、保護者、教職員が共有できるように機会を設けている。特に、保護者に対してはPTA集会の礼拝や「聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義教育に接する機会を設けている。 ●生徒アンケート質問 15「日々の学校生活からキリスト教の精神が伝わってくる」の肯定的評価は 77.9%（昨年度は 80.8%）と昨年度より 2.9%低くなっている。 ●生徒アンケート質問 16「キリスト教に関する理解が深まっている」の肯定的評価は 76.6%（昨年度は 76.6%）、保護者アンケート質問 19「中学部は、キリスト教主義教育を適切に行っている」の肯定的評価は 94.7%（昨年度は 94.2%）といずれも昨年度よりわずかに高くなっている。それぞれの肯定的評価は継続的に高い数値ではあるが、生徒アンケート質問 15 が昨年度より低くなった理由は何なのかを分析せねばならない。 ●教員アンケート質問 25「教員間でキリスト教主義教育の理念を共有している」の質問に対する肯定的評価が 63.6%（昨年度は 61.1%）と昨年度よりは高くなったものの、依然として他に比べて低くなっている。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●創立 130 年という節目を目前に、中学部の建学の精神であるキリスト教の精神をいかに守り継ぎ、これからの時代に適応したキリスト教主義教育のあり方を検証し、具体的でかつ新しい教育プログラムを展開していく。 ●教職員に対して礼拝の機会だけでなく、理念を共有するための研修や学院内のキリスト教主義教育にかかわる行事等への積極的な参加を呼びかけていく。 		

評価項目 【テーマ】	キリスト教主義教育の実践 【キリスト教主義教育の推進】	自己評価	A
目標	学校の重要な柱としての礼拝の遵守／生徒のキリスト教的人間理解を育成するためのプログラムの実施		
具体的な取組の 状況とその効果 に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●キリスト教主義教育の実践として、毎日の礼拝の時間を中心として、生徒と教員がキリスト教精神にふれるプログラムが実施されている。 ●礼拝の奨励者には教員に加え、学外の各分野からも多く招き、いのち・人権・平和などをテーマにした幅広い主題で話を聴いている。また、生徒たちが自主的に取組む毎月平均 6 回開催される生徒礼拝や毎週 1 回の早天礼拝も定着している。生徒たちが積極的に礼拝に対して関わる姿勢が継続的に見られる。 ●生徒アンケート質問 17「礼拝では学内外の様々な人の話を聴くことができる」の肯定的評価は 91.0%（昨年度は 93.8%）と昨年度より低くなっている。生徒たちにとって毎日の礼拝での奨励は自らの生き方を考える場になっている。 ●教員アンケート質問 26「中学部は、礼拝を重要な柱として守っている」の肯定 		

	<p>的評価は 81.8%（昨年度は 80.6%）と前年度より少し数値が上がっている。</p> <p>●教員アンケート質問 27「中学部は、生徒のキリスト教主義による人間理解を育成するためのプログラムを適切に実施している」の肯定的評価は 68.8%（昨年度は 66.7%）とわずかではあるが 2 年連続で前年度より高くなっている。</p>
今後の方策	<p>●いのち・人権・平和、道徳教育などのさまざまなテーマを考慮しながら、宗教運動や毎日の礼拝での奨励や聖書科の授業カリキュラムを通して考え、学ぶことができるように計画する。</p> <p>●生徒たちの自主的な運営による礼拝がより充実していくよう、指導していく。</p>

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【読書・図書館教育】	自己評価	A
目標	読書生活の推進と実態把握／図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開／読書・図書館教育に特化した学校行事の実施／		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●設備の整った図書館の活用を勧めるだけでなく、中学部独自の推薦図書リストの作成、読書記録の推奨、国語科・読書科による授業前の 10 分間読書の実施などを通じて、読書習慣の定着を図っている。</p> <p>●読書科の授業を通じ、図書館の利用、情報の獲得・整理・活用・表現の方法や技術を学習している。</p> <p>●各省庁や法人・企業などから案内のある募集型のレポートや作文などについて読書科が窓口になり、広く生徒に情報を伝達し、生徒がどれかひとつは応募作品を提出する形で、文芸コンクールを実施している。各コンクールに応募した生徒の中から今年度も昨年と同じく 30 名の受賞者を輩出し、校内でも表彰を行っている。</p> <p>●読書・図書館教育については今回も高い評価であった。評価の最も低かった生徒アンケート質問 18「学校生活を通じて読書に親しみ、図書館をよく利用している」であっても 74.8%の肯定的評価を得ており、生徒アンケート質問 19「読書に関するプログラムが充実している」は 89.7%、教員アンケート 28「中学部は、読書生活の推進と実態把握を適切に行っている」は 100%、保護者アンケート 20「中学部は、生徒に読書生活を推進している」は 90.6%、保護者アンケート 21「中学部は、図書館を活用した総合的な学習やプログラムを展開している」は 88.5%とそれぞれ非常に高い肯定的評価が出ている。</p> <p>●3 年前に、唯一評価が芳しくなかった教員アンケート 29「中学部は、図書館を利用した総合的・教科横断的な学習活動を展開している」の項目においても、肯定的評価が 75.7%から 83.3%、86.1%と高くなってきており、今年度は 97.0%となった。これまでの取組が定着してきつつある。</p>		
今後の方策	●今後も、図書館を中心とした読書科の取り組みを軸に、クラス担任ともども読書教育に学校全体として関わっていく。		

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【芸術教育】	自己評価	A
目標	音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の豊かな感性の育成／音楽・美術を中心とした芸術教育による児童生徒の自己表現能力の育成		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<p>●通常の音楽・美術の授業に加えて、秋に行われる文化祭では、各クラスが合唱や器楽演奏を披露する音楽コンクールや学年ごとにテーマを設定し生徒全員が作品制作に取組む美術展などを開催している。</p> <p>●生徒アンケート質問 23「音楽・美術などの芸術活動を通して、表現する楽しさを味わい、豊かな心が育っている」は肯定的評価が昨年度の 67.0%から 68.2%</p>		

	と上昇したものの、やはりまだ高いとは言えない。しかしながら、保護者アンケート質問 25「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により、生徒の感性と表現力を育成している」の肯定的評価は 77.6%から 80.9%へ、教員アンケート質問 31「中学部は、音楽・美術を中心とした芸術教育により生徒の豊かな感性を育成している」は 83.3%から 96.9%へと上昇している。この違いの理由のひとつには、通時的にこの項目を見てきた教員にとっては、文化祭での美術展や音楽コンクールの質の向上が実感として感じられるということが挙げられよう。
今後の方策	●生徒・保護者の肯定的評価も徐々にではあるが上がってきているが、それでも教員に比べれば割合が低い。これは、例えば、音楽コンクールなどで生徒が自由に曲を選ぶ形を取っていない、以前の 12 クラス編成の時は 1 クラス 2 曲の歌が披露できていたが、時間的、場所的問題もあり、18 クラスになって 1 曲しか歌えなくなったことなどが生徒側にとってはマイナス評価の要因と考えられる。生徒の要求におもねるのではなく、しかし一方で今後、改善の可能性を模索していく。

評価項目 【テーマ】	特色ある教育の実践 【キャンプ・体験的学習】	自己評価	A
目標	キャンプ・体験的学習の、教員全員・学校全体による実施		
具体的な取組の状況とその効果に対する評価	<ul style="list-style-type: none"> ●キャンプ・体験学習は中学部が長年大切にしてきた伝統的行事の 1 つである。1 年生時は入学直後の千刈オリエンテーションキャンプ（2 泊 3 日）、2 年生時は学院が所有している岡山県にある無人島の青島でのキャンプ（4 泊 5 日）、3 年生時は修学旅行（4 泊 5 日）と、各学年特徴的な校外宿泊行事を設けている。 ●1、2 年生時の飛鳥・奈良での校外学習、3 年生時の修学旅行では、事前に生徒に行動計画を練らせ、班行動を中心とした自主研修も組み入れている。 ●生徒アンケート質問 25「キャンプや体験的学習が学校手全体で丁寧に準備され実施されている」、教員アンケート質問 33「中学部は、キャンプ・体験的学習により、生徒の創意工夫や協力をする心を養っている」、保護者アンケート質問 27「中学部は、キャンプや体験的学習を丁寧に準備・実施している」の項目については、毎年の評価も非常に高いが、今年度は生徒の肯定的評価が唯一 90%を越えなかった。細かく見ると、1 年生、3 年生に比べて、2 年生の評価がやや低い。これは 2 年生の参加する青島キャンプが、その目的上、生徒たちにとって楽しいプログラムばかりでないこと、天候に活動が左右されること等の要因からそうなっていると考えられる。 		
今後の方策	<ul style="list-style-type: none"> ●青島キャンプにおいては現行 4 泊 5 日という期間を 5 泊 6 日で展開できないか検討中である。 ●修学旅行では、長崎において被爆された方々から直接お話をうかがうプログラムを毎年入れてきたが、講師の方々の高齢化に伴い、このプログラムの続行が危ぶまれている。今後このプログラムをどのようにしていくかが課題である。また、近年修学旅行で民泊をプログラムに組み込むことが増えているが、その是非や場所に関しても継続的に検討していく。 		

(自己評価)

A+=テーマに対する目標を達成した。

A=テーマに対する目標を概ね達成した。

B=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行しているが、達成にはまだ時間がかかる。

C=テーマに対する目標の達成に向けた計画や方策などを実行していない。

総合評価

- 「地域の方から愛される学校でなければ意味がない」、生徒会も教員もこの言葉を大事にして、日頃の指導に当たっている。隔週で実施している地域奉仕活動を大事にして、一人一人が何かの役に立てるようでありたい。生徒の自主自立の精神の向上に努め、生徒の指導事項が起こった場合は「迅速・適切・誠実」をこれからもモットーにして進めたい。また昨年度からサポートルームを設置して支援員を配置したことで、これからもお互いに情報交換し、生徒にとって居心地の良い、一人一人の居場所を大切にできる学校づくりをめざしていききたいと考える。
- 中学生にとって、正規の授業と共に重要な部分を占める課外活動では、今年度も多くのクラブが成果を上げてきた。大学生コーチの支えを借りて、それぞれの部の活動の更なる充実により、生徒たちが高い目標を持って学校生活を前向きに送ることができるように引き続き環境を整えていきたい。
- 中学部の保護者の方は、行事やPTA活動に非常に協力的でいてくださる。非常に熱心に活動してくださる幹事さんの負担を、少しでも減らしながら、保護者の方が気持ちよく参加できる形をますます続けていきたい。
- キリスト教主義教育は、関西学院の根幹をなすものであり、毎日の礼拝や奉仕活動を通じて、生徒たちに生き方の指針を示すものである。早天礼拝や生徒礼拝の時間を今後も大事にして、いのちや人権、平和学習を、複数の教科でリンクさせながら進めていければと考える。
- 中学部では毎日の授業実践を最も大切にしており、豊かな才能に恵まれた生徒の知性と感性に響く、高いレベルを維持しながらもわかりやすい授業を行うことを追求してきた。そのための各教員による自主教材の開発、客観的な視点から見るための外部テストの活用、同時に従来からの学力推移調査や英語のGTEC、体育の運動能力テストなどを通じて自分の力に自信をつけさせ、生きる力となる人間力を伸ばすことを大切に考えて取組んで行きたい。社会人として大事なものは、人間力の最高峰としての誠実さや謙虚さであり、それを揺るぎないものにするために、日々の学習と生活習慣を、よりしっかりとしたものとして生徒に根付かせていきたい。
- 特色ある教育の実践としては、大学までの一貫校である環境を大事にして、読書科、図書館教育において、大学生や社会人になった時に通用するような課題探究学習が伝統的に実践されている。生徒たちの主体的な学びの成果は、修学旅行に関連するテーマを掲げて完成させる卒業レポートと、その集大成としての授業における全員のプレゼンテーションのみならず、社会の中で評価を受ける文芸コンクールにおいても多数の表彰者を出していることや肯定的評価が90%を超えていることからわかる。さらに1年生の時の自然の中での千刈オリエンテーションキャンプや、飛鳥・奈良市街での校外学習、3年次の長崎での修学旅行で実際の被爆者から学ぶ平和学習などの本物との出会いを通じて、生徒たちがより人間的に成長できる学びを今後も大事にしたい。生徒たちには、同世代を生きる世界の若者に目を向けて、原爆の悲惨さをしっかりと語り継ぐことができる若者たちであってほしいと願う。
- 中学生時代の3年間は、生徒たちが様々な壁にぶつかりながらも、大きく成長する時期である。良いところは思いっきり褒めて、間違いがあれば本気で向き合っ、共に成長できるように努めたい。中学部は盛りだくさんの、ある意味ハードな教育であるが、困難や苦勞を乗り越える経験も、人として生きるために大切となる。将来生徒たちが社会に必要とされる人間として生きていけるように、大人が本気でバトンを渡せる学校でありたいと考える。

2018年度の評価をふまえて2019年度に予定している評価項目、テーマ等

- 評価項目については、①教育課程・学習指導、②生徒指導、③保健管理、④保護者との連携、⑤キリスト教主義教育の実践、⑥特色ある教育の実践、以上の6項目を継続して取り上げる。

第三者評価／学校関係者評価

全体として、自己点検・評価が誠実になされ、改善への取組も概ね良好であることから、PDCAサイクルはうまく機能していると判断されます。なお、個別の評価項目へのコメントは以下のとおりです。

〈教育課程・学習指導〉

- 教育課程・学習指導に関して、生徒、保護者ともに学校への満足度、教育課程やその内容についての評価が高い点は高く評価できます。また学力格差が広がるなかで、基礎学力の定着と発展的、応用的内容の充実の両面に対応するために、補習や分割授業の実施などの取組がなされてきたことも評価でき、今後一層の充実が望まれます。ただし、多忙化する学校環境にあって、現在の教育資源のなかでこうした問題に対応するには限界もあるため、この点に関しては何らかの人的・財政的支援が必要であると考えます。
- 高等部との連携に関しては、ここ数年のアンケート結果から徐々に連携が浸透してきたことが理解されますが、昨年度に比べ肯定的評価がかなり低下している点は気がかりです。生徒の多様化などの問題から、隣接校種（初等部、高等部）間の連携はますます重要性を増しています。今後人的交流をさらに進めるなど、連携への取組が進展することが期待されます。

〈生徒指導〉

- 生徒指導上の諸問題に関して、生徒、保護者の肯定的評価が概ね高いことは評価できます。また生徒指導に関する「情報共有フォルダー」（昨年度）や「共通理解のための教員用マニュアル」（本年度）の作成といった教員間での情報共有や意思統一を企図した改善が図られ、アンケート項目「生徒の問題への対応に関する教員間の共通理解」での肯定的評価が従来に比べかなり高まったことは高く評価でき、今後こうした取組がさらに進展することが期待されます。

〈保健管理〉

- 従来同様、健康診断の実施と事後措置、怪我、急病発生時の迅速な対応などについては、生徒、保護者、教員ともに肯定的な回答が多く高く評価されます。生徒の心理的な問題に関しては、担任、学年主任、養護教諭、カウンセラー等と保護者の連携が不可欠となり、情報交換、情報共有、それぞれの立場での支援のあり方の検討など、協働で取り組むことが求められます。アンケート結果からこうした態勢は整っているようですが、生徒が訪れやすい「開かれた保健室」をめざしてのさらなる努力を期待します。

〈保護者との連携〉

- PTAとの協議会の開催、学校行事などでの連携に関して、保護者からは概ね高い評価が示されており、保護者との連携が円滑に進んでいることが窺えます。またクラス担任と保護者の二者面談や生徒を交えた三者面談もきめ細かく行われており、この点に関しても高く評価でき、今後もこうした連携が一層深まることを期待します。

〈キリスト教主義教育の実践〉

- 生徒や保護者に、建学の精神であるキリスト教主義教育への理解が深められていることは高く評価できます。その背景として、毎日の礼拝や聖書科の授業、生徒が自主的に取り組む生徒礼拝や早天礼拝、PTA集会での礼拝や「聖書を学ぶ会」を通じての保護者への働きかけといった地道な努力が功を奏しているものと考えられます。日々の積み重ねにより、キリスト教主義教育への理解が一層深まることを期待します。

〈特色ある教育の実践〉

- 礼拝、読書、青島や千刈キャンプといった体験学習など、中学部は従来から特色ある教育実践に取り組んでおり、こうした点は非常に高く評価できます。また他に類を見ない「読書科」については、活字離れが進む今日においてその意義は極めて大きいとともに、今求められているアクティブ・ラーニングを通じた教科横断的な汎用的能力の育成という面からも大いに期待されるところです。実際、「図書館を活用した総合的・教科横断的な学習活動の展開」に関する肯定的評価がここ数年上昇し、本年度は100%近くになっていることから、こうした取組が確実に定着してきていることが分かり高く評価できます。また行政や企業などからの募集型レポートや作文への積極的応募や多

数の受賞者の輩出といった成果からも、「読書・図書館教育」がうまく展開されていることが理解されます。今後も、こうした課題解決の学習や探究的活動への取組が一層進展していくことを期待します。

〈教育課程・学習指導〉

- 新入生に対して「学習ガイドブック」を配付し、生徒だけでなく全教員が共通理解のもと学習指導に取り組んでいることの効果は大きいと考えます。
- 学級担任だけでなく、当該学年担当者が情報交換会を実施していることで、教科、領域を問わず全教員が個別の生徒についての情報を共有できています。
- 学習指導要領の改訂に向けた取組みが着々となされ、指導方法の工夫改善につなげようとしていることがわかります。
- 様々な外部試験等の実施により、生徒の客観的な学力の把握に努め、日常の授業の工夫や改善が行われています。
- 生徒の学力状況について、通知表だけでなく、様々な方法で伝達することにより、個々の生徒のよさが保護者にも理解できると共に、生徒も自分自身の学習目標を具体的に描くことが出来るようきめ細かい工夫がなされています。
- また、基礎的な内容を定着させることと併せて発展的・応用的な内容にも取り組ませることで、生徒の学力保証、そして興味関心に応じた授業が展開されています。
- 応用的、発展的な学習、英語における分割授業、補習、学習指導会、定期試験前の学習会等の実施など、個々の生徒の学習状況にあわせた学力向上の取組が行われています。
- ほとんど（95%以上）の生徒がクラブ活動に参加しており、そこから「感謝、祈り、練達」の教育理念の具現化を図ろうとする学校及び生徒の意欲や姿勢が分かります。併せて、クラブの活動停止期間を設けることで、学習との両立や他の幅広い体験につなげる工夫がなされています。

〈生徒指導〉

- 基本的社会マナーについて、全教員で重点的に指導していることの意義は大きいです。
- 生徒会活動が活発に行われており、各行事等も実行委員会を中心に積極的な生徒の関わりがあります。
意欲を持った生徒による主体的な学校行事の運営や参加の状況が伺えます。
- 教員が複数年生徒会を担当することで、生徒会活動の継続性が高まっています。
- 問題行動については、「迅速・適切・誠実」を念頭に学年と生徒指導部さらに管理職が組織的に対応し、解決を図っています。

〈保健管理〉

- 学校医と定期的にミーティングの場を設け連携を密にして生徒の日常生活の指導に役立てています。
- 身体面の変化だけでなく、心理的要因での保健室ニーズが高まっていますが、保護者、学校、カウンセラーが有機的に連携し生徒のサポートに努めています。
- 生徒の多様なニーズに対して、気軽に相談できる保健室体制をさらに充実させる工夫が必要です。

〈保護者との連携〉

- PTA役員会、PTA集会、クラス集会等、様々な機会を通じて保護者と多くの時間を共有するよう努め、保護者に学校への協力と学校理解を促す取組を工夫しています。
- また、全クラスで保護者との二者面談、三者面談を行い、保護者と顔と膝を突き合わせて生徒のことを話し合う機会を持っていることはあらゆる意味で非常に重要です。

〈キリスト教主義教育の実践〉

- 毎日の礼拝、聖書科授業を学校の重要な柱として、キリスト教主義教育についての理解を深め、生徒の人格の完成にむけた取組が行われています。
- 保護者に対しても、「聖書を学ぶ会」等でキリスト教主義の理解が深まるよう努めています。
- 生徒礼拝や早天礼拝が定着し生徒が積極的に礼拝に関わろうとする姿勢がわかります。

- 生徒による自主的な運営によりさらに充実した礼拝となることを期待します。

〈特色ある教育の実践〉

- 整備された図書館を活用して読書科の授業が実施されており、読書習慣を定着させるとともに、様々な情報の獲得・整理・活用・表現の技能が高められています。
- 中学部の特色でもある読書科の取り組みにより、生徒が読書に親しむ態度が形成されていると同時に、教科を超えた探求的な学習を行う力の育成が行われています。
- 音楽・美術を中心とした芸術教育の充実によって、生徒の豊かな感性を育むよう努めています。音楽コンクールでは、生徒の意欲的な取り組みが定着してきています。
- 各学年が工夫した特色ある体験活動が実施されており、事前の行動計画の作成や自主研修など生徒の自主性を尊重した取組となっています。
- 実際の体験を通じた学習では生徒の人間関係の構築や自主的に活動する態度の育成が図られています。
- 聖書科や社会科の授業をはじめ、全教育活動を通じて生徒の人権感覚を磨き、平和を希求する態度を育む取組が行われています。

中学部の学校生活の様子から、生徒の真剣な学習や生活の様子、そして教職員の生徒に対する本気度や熱意を強く感じることができます。

中学部では、文字数2万字にせまる卒業レポートの作成を行っていますが、書き上げたレポートだけでなく、それを書き上げる過程こそを大切にして指導に当たっていることが分かります。その姿勢は中学部における学びの姿そのものであると考えます。

中学部が学校をあげて、将来の人格の完成に向けた人間力の育成に努めていることが伺えます。

正規授業同様に重要である課外活動で今年度も多くのクラブが充実した活動を行なっていることを喜ばしく思います。保護者が行事やPTA活動に非常に協力的とのことで、特に熱心に活動している幹事の負担減少と、保護者が参加しやすい活動を求めるとのこと、是非とも進めていただきたいです。

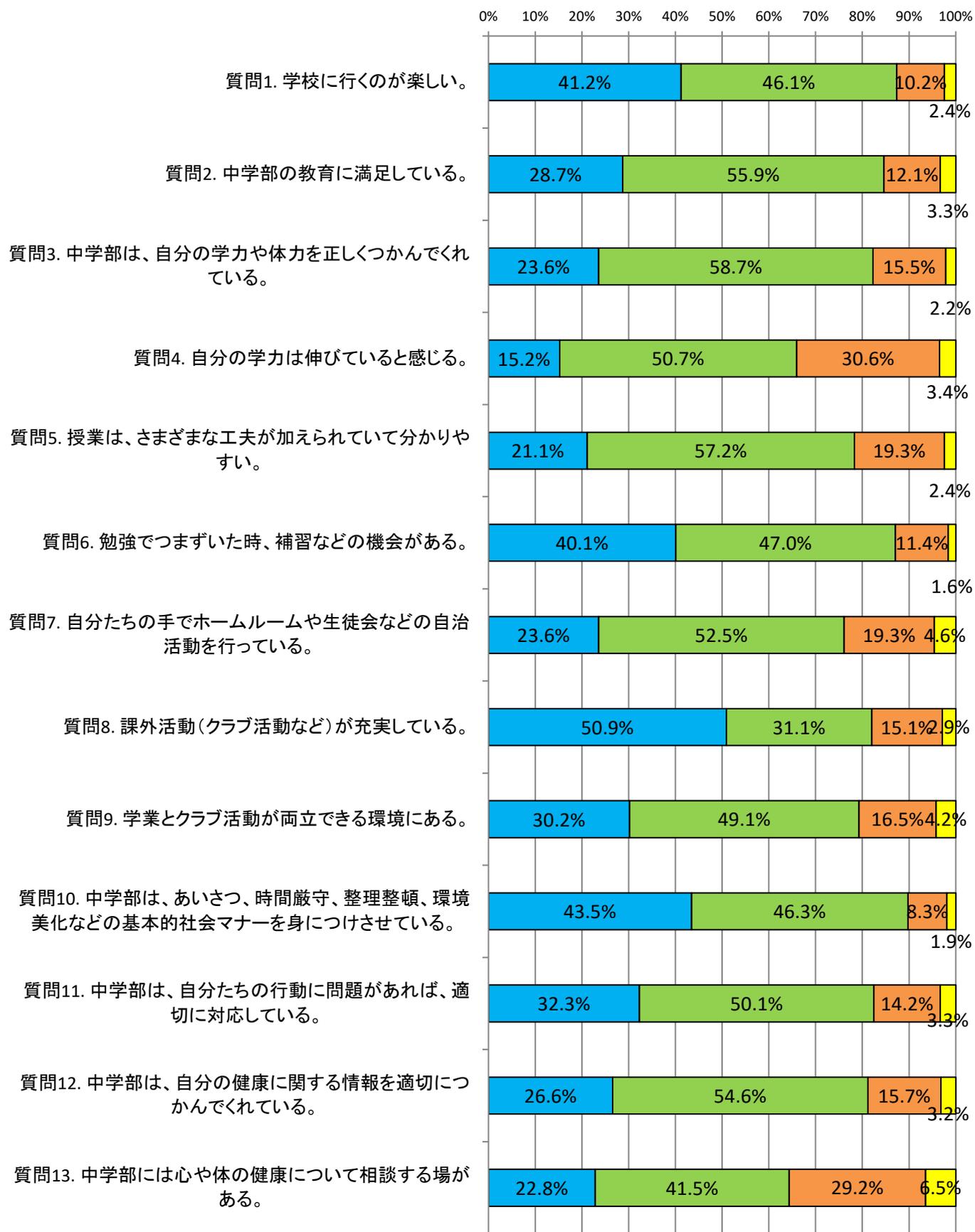
従来からの学力推移調査や英語のGTEC、体育の運動能力テストなどを通じて生きる力となる人間力を伸ばすことを大切に考えて取組んで行くとのこと、そうした総合的な学習環境から、日々の学習と生活習慣を生徒たちに根付かせることを続けて欲しいと思います。昨年度からサポートルームを設置して支援員を配置し、生徒にとって居心地の良い、一人一人の居場所を大切にできる学校づくりをめざしているとのこと、この点について今後も引き続き成果を上げていただくことを期待します。

- 中学部の伝統あるきめ細やかな取組は、まず学校評価のアンケート実施姿勢そのものに表れています。多岐にわたる細やかな視点で自己評価を実施し、学年ごと・男女ごとに分けて丁寧な分析をしておられます。
- キリスト教主義に基づいた伝統ある教育が生徒・保護者双方に深い信頼を得ていることが自己評価アンケートの結果に広く表れており、それは特に「キリスト教主義の実践」として礼拝で学内外の多彩な人の話を聞く機会を設定されていることや「読書科・図書館教育」「キャンプ活動」であり、これらの項目が中学部の学習の根幹をなす素晴らしい教育活動であることが再認識されます。
- また「保護者との連携」や「マナー教育」においても中学部が長年大切にされてきたことが脈々と受け継がれて文化を形成していることが見て取れます。
- 一方、時代の変化に伴う比較的新しい取り組みと言えることのひとつが、校内でのテストに加えて外部テストも活用しての学習評価をしておられることです。「学習ガイドブック」も利用し、教員間の情報共有の機会も増やして生徒の学習の様子の把握に努めておられることは生徒・保護者からの評価も高いです。教員側の自己評価がそれに比して低めになっているのは、生徒数が増え、学習到達度の差が広がっていることに原因があるのでしょうか。
- 生徒の自主自律の精神の育成に関しても、その評価は、保護者、生徒、教員の順に高くなっており、これは生徒主導の活動が活発であるものの、生徒会が中心となっているため、特定の生徒に集中し

た活動となっているのではないかとの分析です。生徒会の役員などの立場に関わらず全ての生徒が創造性やリーダーシップを発揮できる仕組みを、例えば、中学部の最大の強みである既存のキャンプ活動や読書活動などに取り入れられる工夫されることを望みます。同様に、上に記した学習到達度の差が広がっているという問題に関しても、生徒の評価方法や指針に多様性を持たせることで解決の糸口がつかめるのではないのでしょうか。一人一人の個性を尊重して伸ばしつつ、伝統的に積み上げて来られた他の学校には真似のできない教育文化と高い教育水準を維持・向上されることを期待しています。

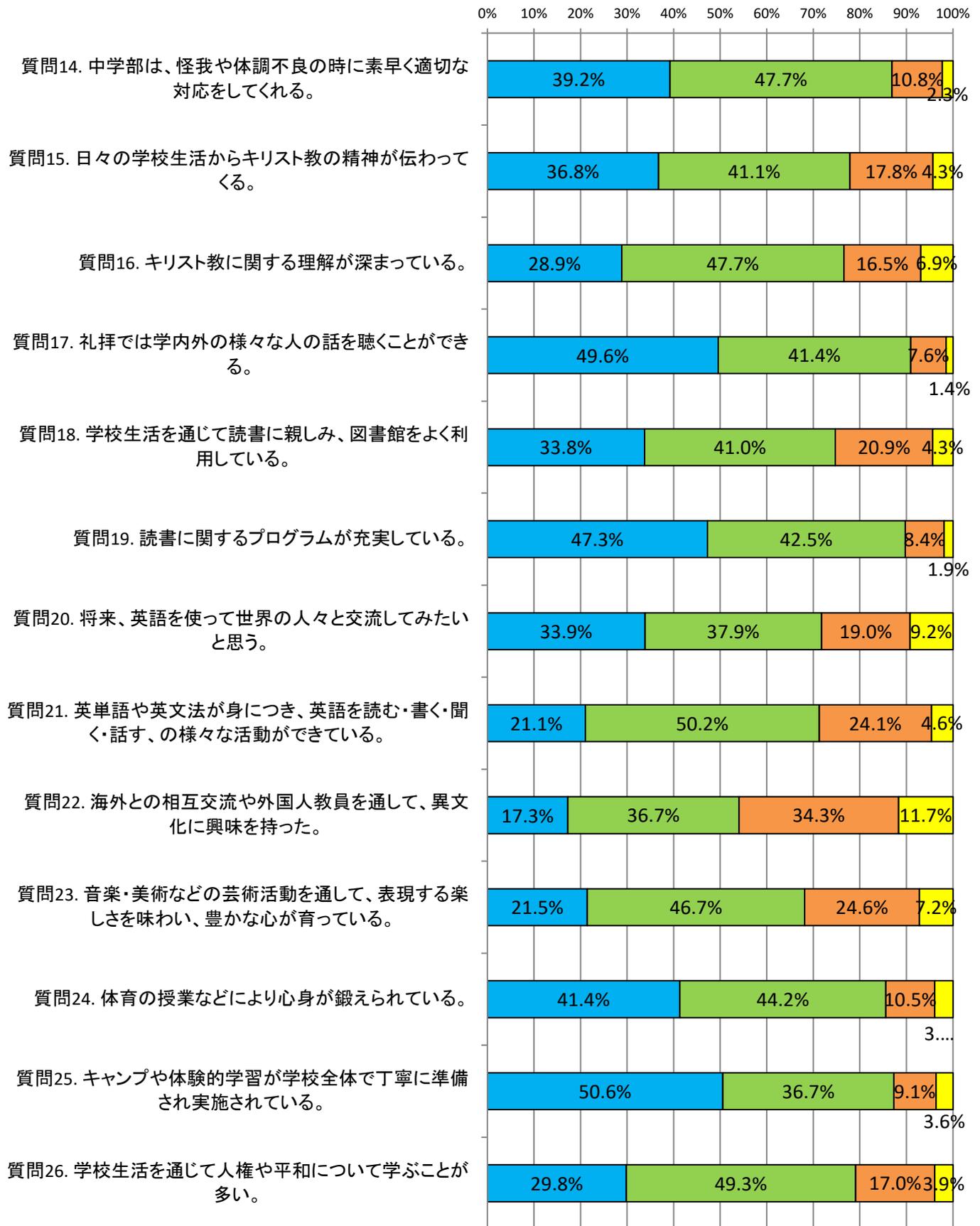
2018 年度学校評価

2018年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 質問1～13 (回収率 97.6% 696人/713人中)



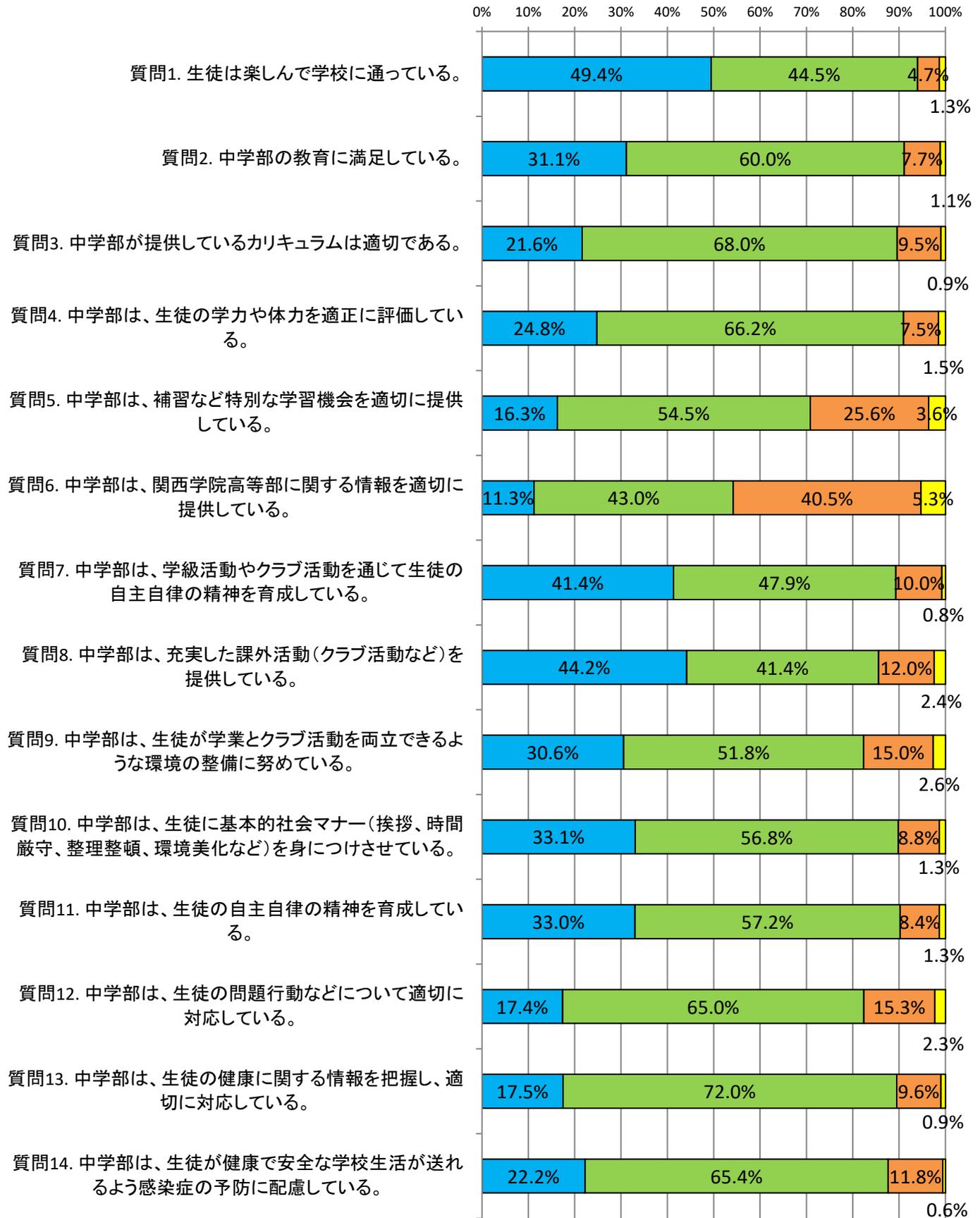
■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2018年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・生徒 質問14～26 (回収率 97.6% 696人/713人中)



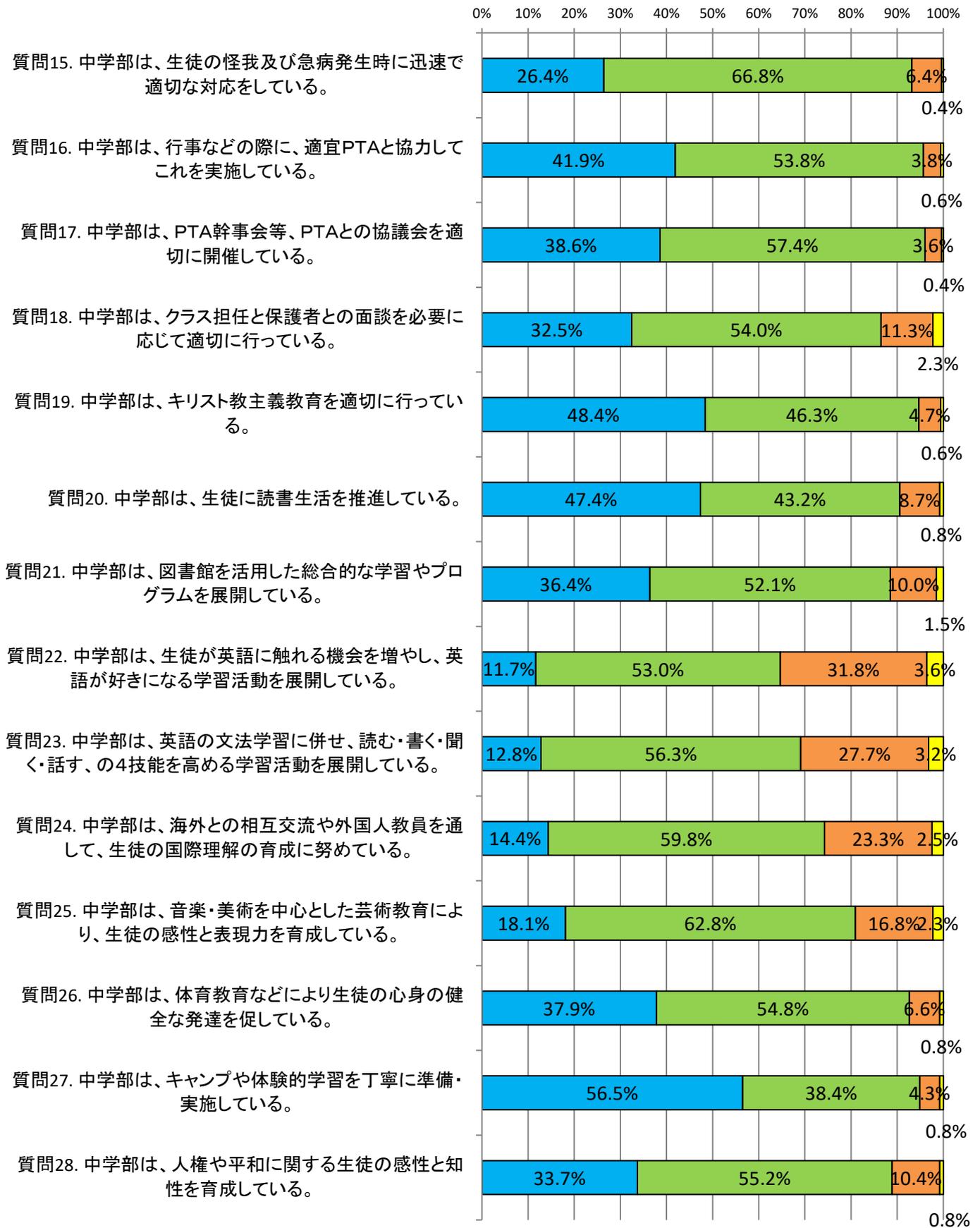
■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2018年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者 質問1～14 (回収率 74.7% 534人/714人中)



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

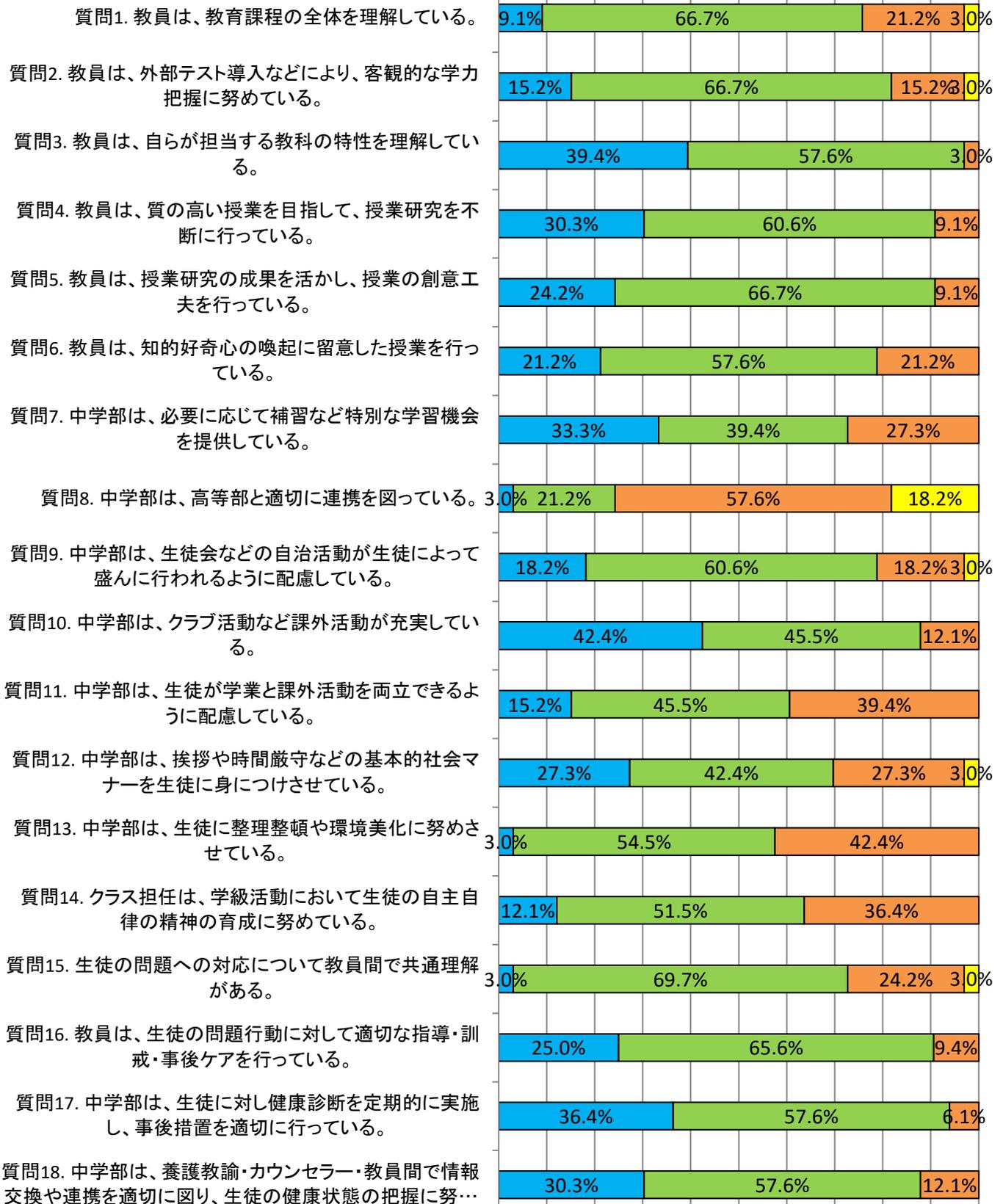
2018年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・保護者 質問15～28 (回収率 74.7% 534人/714人中)



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

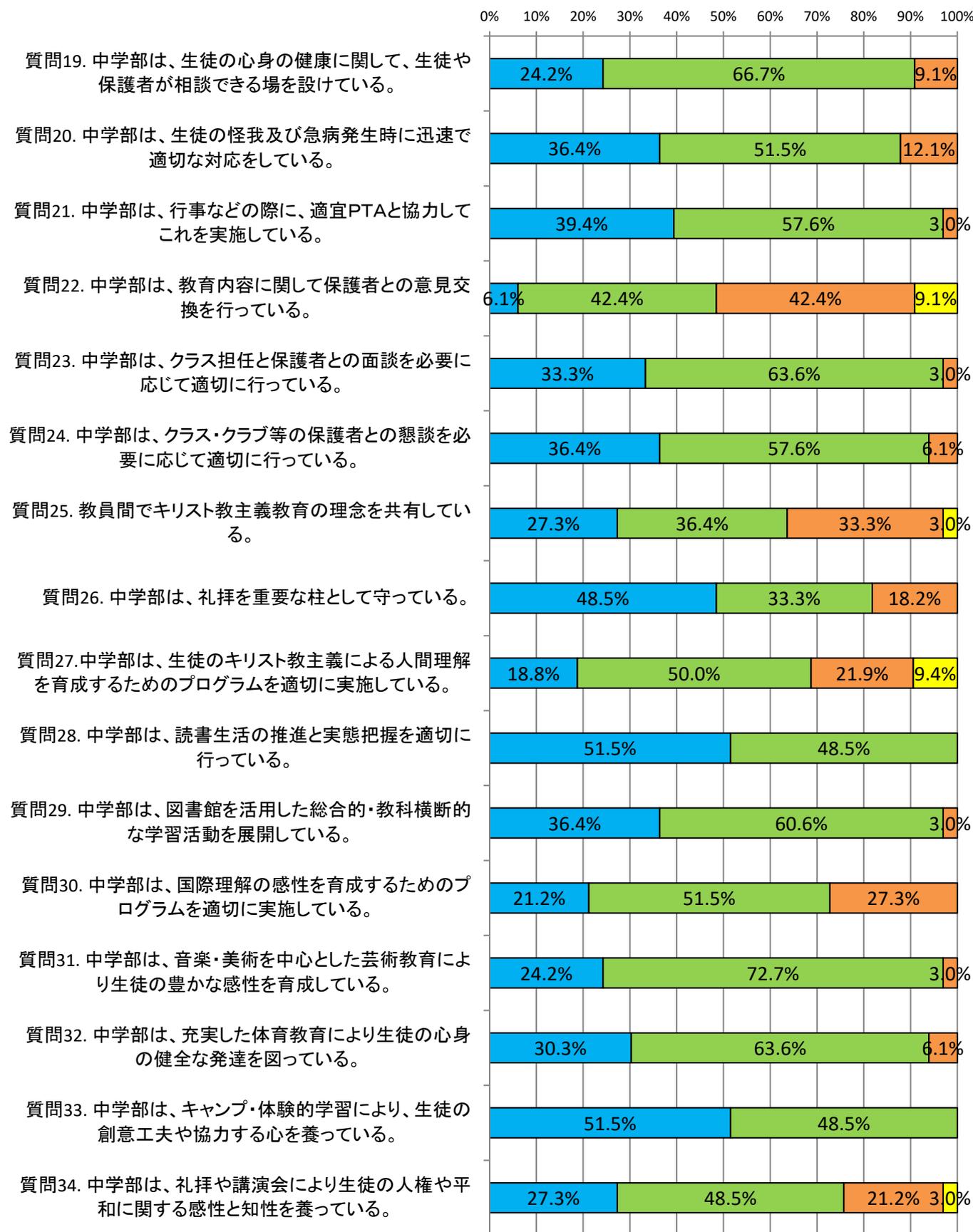
2018年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員 質問1～18 (回収率 100% 33人/33人中)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2018年度 学校評価アンケート集計結果
 中学部・教員 質問19～34 (回収率 100% 33人/33人中)



■ 回答番号1: 強く思う ■ 回答番号2: どちらかといえば思う ■ 回答番号3: あまりそう思わない ■ 回答番号4: まったくそう思わない